

ヤル気と危機感

会社の事業目的が、進歩発展を視野に入れない事業は、「親方日の丸」で成立し寄生する事業です。

これはどうしてもヤル気、本気度、命がけの執念、熱意情熱からほど遠いものになりやすい。

一般的に社員と、顧客と社会に無責任なものになり社会的な責任を軽視し、存続のみ、私欲に傾倒しやすいものであ

ります。

一番最初にリーダーが勇気を持って立ち上がり、まずは嘲笑されます。

しかし追従者が現れてリーダーが複数になった、この最初の追従者はリーダーシブの一形態です。

最初の追従者の存在が一人のバカをリーダーへと変えるのです。二人目の追従者が現れた時点で、すなわち三人は集団に変化したのです。

すごいことをしている孤独なバカを見たら、立ち上がって参加する。最初の人間となる勇気を持つこと、

これが変革の始まりです。すべての始まりになります。



中村会計事務所

(有)西川経営オフィスサービス

事務所便り

2013年7月23日(火) NO 305

地域から明るい未来を作ろう

スノーデンの義

個人の性格まで推認できるものです。まして通信やネット検索を傍受すれば、国家や個人の思考まで完全に把握できます。

中国にGOOGLEが進出時に中国政府が機能制限したように、情報は筒抜けなのです。米国の「人権」は茶番であり、

「正義」は茶番であり、権力の都合で使いつけています。携帯電話が登場し、

強力なコンピュータで人の移動が的確に把握でき、メタデータに活用できます。(メタデータとは、あるデータに関する情報を持ったデータのこと)

ウィキリークスのジュリアン・アサンジ氏やスノーデン氏は権力者に対する抵抗勢力でしょうか。

時代は、人類は神と悪魔の領域に入っている。我々は、果たしてそれにふさわしい者でしょうか。

国家の強靱さとその文明の性格は建設現場で足場を組んだり機械を組み立てるようになって出来るようになるものではない。

その成長はむしろ植物や樹木の成長に近い。育てることに比べたら木を切り倒すことはひどく容易なものだ。

起きた話

唯一無二の時間を経て育てた公園樹木を、権力(役人)の一方的な理屈で伐採した。

人々に与えてしまった苦痛や損失も許されるか、忘れ去られるだろう。

情報を民に公開せず、問題とする者を、議会で「一部の者」と差別発言。

これを問題にしないのは国民の大問題であります。

物事をごまかすほど、致

命的なものはない。犯した間違いはやがて許されるだろう。戦争の記憶さえ、勇敢に戦った人々の美德は記憶に残るだろう。しかし、卑怯な言い訳やごまかしは人々の心を傷つけ、その怒りは永遠に消え去ることはない。

― チャーチルの言葉